

9月 くれよん もり組

園庭に出ると「トンボがとんでるよ!」「今日はいつもより涼しいね」など子どもたちは早くも園庭でたくさんの秋を見つけて教えてくれます🍁

夏の疲れも見せず、毎日にこにこ笑顔で登園してくる子どもたちを見ていると、本当に頼もしい限りです(^^♪

今月は「自分で考えて行動する力を育む」というテーマです!もり組では様々な場面で子どもたちが自分で考えて行動する経験を持てるよう大人は「どうしたらいいかな?」「なんて言えば相手に伝わるかな?」などとまずは子どもたちに聞き一緒に考えてみることを大切にしています(^^)子どもたちからでる考えやアイデアは素敵なものばかりです!

お家でも「どうしたらいいかな?」をたくさん聞いて一緒に考えてみてください!

自分で考えて行動する力を育む＝思考力：自立心

幼児期の終わりに育ってほしい「10の姿」の中に「思考力の芽生え」という項目があります。難しそうな言葉ですが、これは遊びや生活の中で「どうすればうまくいくかな?」と子ども自身が自問自答し、工夫するプロセスのことです。たとえば積み木なら「崩れないように高くするには?」「見本と同じ形にするには?」、友だちとの関わりなら「なんて言えば仲間に入れるかな?」と考える姿すべてが「思考力の芽生え」につながっています。

日常のトラブルでも同じです。「お茶をこぼした!」という時、大人がすぐに拭いてあげるのは簡単ですが、私たちはあえて一歩引き、子どもからの発信を待つようにしています。

「あ、こぼしちゃった...」「雑巾持ってくる!」「拭くのお手伝いするよ」と、先回りしないことで子どもが自分の頭で考え状況を判断し、行動に移す大切な「時間(間)」が生まれます。保幼小連携の研修では、小学1年生の担任の先生から「先生、これ正解ですか?」「何が正解ですか?」と答えを求める子や指示待ちの子が多いというお話がありました。周囲の大人が先回りして「こうしなさい」と指示を出しすぎると、自分で考える機会を奪ってしまいます。失敗も含めて「自分で考えて試せた!」という達成感こそが、小学校以降の自律的な学びや自己肯定感の土台になります。

子どもたちが困っている時、ほんの少し距離を置いて見守り、一生懸命考えたプロセスをしっかりと認めていきたいと思います。

【この姿に関わる「10の姿」】

★思考力の芽生え(どうすればよいか判断し、方法を考える)

子どもたちが自分で考える姿は色々な場面で…

～遊び～



糊の量はどのくらい?

糊が全部の指につかないように人差し指を使おうかな...

見本と同じ積み方をしたい...どうやって積み上げたらいいのかな?!一緒に考えよう!!

～自然・食育～



ダンゴ虫って足何本あるのかな?

とうもろこしの皮って固いな～

お部屋に帰って図鑑で調べてみよう!

ここからむいたらむきやすそう!!

～友だちとの関わりの中で～



どうやって順番を決めよう!?

一緒に遊びたいな～...なんて言おう!?

みんなでおもちゃを使う為にはどうすればいいのかな!?

友だちが使っている玩具なんて言えば貸してくれるかな?